



東京の会通信

No.246

2013年1月1日号
(隔月1日発行)

発行：公的骨髓バンクを
支援する東京の会
〒162-0065 東京都新宿区
住吉町10-8 第1菊池ビル302号
TEL：03-3354-6377
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

今年も元気に活動します！



東京の会の皆さん、「東京の会通信」を読まれている全国のみなさん、あけましておめでとうございます。

昨年の東京の会は、事務所の移転やその費用負担に伴って、毎月発行していた会報「東京の会通信」を隔月発行にするなど、一定の見直しをせざるを得ませんでしたが、その中でも活動は地道に続けられました。みなさんには、今年も変わらず地道に活動を続けていくことを、まず表明したいと思います。

昨年のもう一つ大きな出来事は、骨髄移植を必要とする患者さんとその家族、骨髄バンクを支援する運動を続けている方々にとっては、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法案」が国会で議員立法として全会一致で可決され、私たちが骨髄バンク創立以来主張し続けてきた国の責任、基本理念、基本施策が明確化され、今後の造血幹細胞移植の充実、発展に向けて大きな確信となったのではないのでしょうか。

法案に対する見解や今後の課題、運動の方向については、東京の会通信No.245（2012年11月1日発行）で二見事務局長が「その意義と課題」と題して詳しく述べておりますので、是非ご一読をおすすめします。現在、施行を前に政省令、施行規則、通達作成等の作業

が行われていると伺っております。

また、私たちが昨年から取り組んでいる、全国協議会の組織活動の改善についても重要な課題の一つとして力を尽くします。

この原稿を書いている時期は、東京都知事選・総選挙の真最中ですが、この会報がお手元に届く頃には結果が出ている事と思います。選挙の動向によっては、これから日本の国民皆保険制度がどうなっていくのか、よもや皆保険制度が原則廃止、崩壊するようなことにならば、患者さんによっては骨髄移植などの高度医療が、経済的な理由によって受けられなくなる可能性が出てくるのではないかと心配しています。

また最近の風潮として貧困層の増大により、私たち東京の会や骨髄バンクのボランティア団体も、特に若い方の参加が少なく影響を受けているのではないかと思います。これらについてもどう取り組んでいくのか、本格的に考える時期に来ているように思います。

重い課題も抱えながらの今年のスタートであります。東京の会は1月8日の足立区役所の登録会への参加が今年の活動のスタートとなります。東京の会の会員の皆様、全国のボランティアの皆様方が、今年1年間御健勝であることを祈念して新年のご挨拶と致します。今年も一緒に頑張っていきましょう。

公的骨髓バンクを支援する東京の会
代表 三瓶 和義

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成24年11月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	423,977	56,201	37,344
10-11月登録分	7,453	579	511
10-11月抹消数	2,379	289	—
実質登録増	5,074	290	—

患者とドナー登録・適合状況(11末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	563,911人
ドナー登録抹消者数(累計)	139,934人
二次検査適合ドナー数(累計)	197,007人
実質登録患者実数(現在)	2,916人(国内1,592人)
HLA適合患者数(累計)	30,293人(患者累計数の81.1%)
非血縁移植実施数	14,964例(10-11月実施241例)

20回目のピアノ三重奏コンサート

チャリティーコンサートは美しい音色と感動的なお話で

10月31日、東京の会恒例のチャリティーコンサートが市ヶ谷ルーテルホールで開かれました。このコンサートは今回で20回目となりました。

20年以上前、三戸素子さんや小澤洋介さんの音楽仲間の金井いずみさんが白血病にかかり、三戸さんたちが自分たちに出来ることは何かないだろうかと、全国協議会へ電話で相談しました。それがきっかけで各地ボランティア団体でのチャリティーコンサートが始まりました。その後金井さんは亡くなってしまいました。がチャリティーコンサートは現在まで続いています。

昨年は20周年でしたが、東北を襲った大震災の影響でホールの予約が出来なくなり、止むを得ず中止しました。今年はなんとか実施したいと会員が熱望し、10月31日を迎えました。毎年私の頭を悩ませたのが、チケットの販売でした。3月頃の定例会で私は『やはり本気になってチケットを販売しなければチャリティーといえども駄目なのではないか』と訴えました。

いつも演奏者の方々は優しく、気にしないでいいのよと言って下さいます。でも演奏者が素晴らしい音色を聴かせて下さるのに、客席がまばらではほんとうに申し訳ありません。私のハッパは功を奏し、当日の市ヶ谷ホールは満杯とは言えないまでも7～8割のお客様が来られてました。

三戸さんのバイオリン・小澤さんのチェロ・ティムさんのピアノは例年にも増して美しく響き、聴衆を魅了しました。また千葉県のバラ栽培農家・中澤忠司さんからは『20周年おめでとうございます』のメッセージとともに美しいバラが届けられました。ミニシンポジウムでは、患者の梶原由記子さんとドナーの中川貢一さんのお二人から、本当に感動的な体験談を伺うことが出来ました。

昼間に開かれたモノリス昼休みコンサートは、モノリスに入っていた企業が他に移ったりしたこともあり、少し入りが悪かったのですが、来られた方は熱心に聴

いて下さいました。

演奏者の皆様、会場に足を運んで下さった方々、本当にありがとうございました。(中谷光子)

会場が一体となった迫力のコンサート

バイオリニスト三戸素子さんとチェリスト小澤洋介さんが、ザルツブルグで一緒に音楽を勉強した友人の白血病発病を機にずっと続けてこられた骨髓バンク支援のチャリティーコンサートは、今年20回を迎えました。

今回はピアニストにティム・レーベンスクロフトさんが来日され、昨年は震災でコンサート開催を見合わせたため、2年ぶりに東京の会で「ピアノ三重奏の夕べ」を主催できたことはうれしく、演奏くださったお三方に深く感謝いたします。

10月31日、まずお昼に新宿モノリスビルで無料のミニコンサートが行われました。新宿のビジネスマンの昼休みはなかなか忙しい様子で、モノリスの吹き抜けのアトリウムに響きわたる美しい三重奏の調べにも、ゆっくり足を止めて聴いてくださる人は少なく残念でした。でもお義母さまを亡くしたばかりの友人が聴きにきてくれて、「こんなに近くで生の演奏を聴いたのは初めてで、このところ張り詰めていた気持ちが癒されて、自然と涙があふれてきた」と言ってくれました。

そして夜の部はルーテル市ヶ谷ホールで、移植を受けた患者さんとドナーさんに出演いただいたミニシンポジウムをはさんで、ハイドン、シューマン、ベートーヴェンのピアノ三重奏曲が演奏されました。200席の会場を今年こそはお客様で一杯にしようとする東京の会のメンバーみんなでチケット販売に力を尽くした甲斐あって、たくさんのお客様が来場くださり、温かいご支援をいただきました。

いつもに増して熱のこもった迫力の演奏が繰り広げられて、聴いている私たちも音楽に引き込まれていき、会場全体に一体感が生まれたような素晴らしいコンサートになりました。(松下倫子)

「ありがとうございます」 中川 貢一

今回ミニシンポジウムでお話して下さったドナーの中川さんは、東京の会通信No.227(2011年3月)にドナーからのメッセージを寄稿いただきました。中でも、ご自身が精神的な病を克服してドナーとなられた時のお気持ちが綴られています。今回は更に赤裸々に、登録に至るまでの体験を語って下さいました。ミニシンポジウムでのお話しの内容をもとに、再度中川さんに体験記を書いていただきました。

二年前のクリスマスの夜、寒さに身を縮ませながら帰宅すると一通の手紙が届いていました。それは、患



者さんからのものでした。

しっかりしたご本人の字で過分な内容の文章でした。そして「おばあちゃんを助けてくれてありがとう僕も大きくなったら、人の役にたてる人間になります」と、お孫さんからの手紙も同封してありました。あんなに冷えていた身体がほのぼのと温かくなるのを感じ、そして涙が出てきました。

私は、今から10年前にアルコール依存症と診断されました。学生の頃より20年飲み続け、後半の10年は、まさにお酒と共に（友）に生活してきた結果です。10年前の入院時「節酒ではなく断酒」「回復はあっても治癒はない」と学びましたが、退院後、「何故私だけが、こんな病に」「今度は上手く飲める」そして一杯。以前よりも大量の飲酒になるのに時間はかかりませんでした。そして2度目の入院、自虐的な精神状態から鬱病とも診断されました。「病気を受け入れ、自助会に通い同じ病の仲間と共に止めていく」。この言葉を信

じて渴望の日々を過ごしました。

ある日の日曜日に、ふと『少しは人の役に立つには、今自分に出来ることは？』『2年間も止めているのだから献血でも…』献血ルームを訪問。そこで骨髄バンクの存在を知りました。

お酒のない生活が続いている今日、お陰さまで仕事に自助会にと慌しく生活を送っています。下を向いて歩いていた私が、自助会参加で少し自己肯定感を持つことが出来ました。そしてドナーにならせて頂いたことにより、しっかりと前を向いて歩けている自分を感

じることができます。
今年の冬も寒い日が続きますが、あの日頂いた温かさと力を感じながら生きていきます。患者さんお孫さん、そしてみなさんに「ありがとうございます」。
ミニシンポジウムのもう一人の出演者、患者の棚原由記子さんには、次号「患者からのメッセージ」で体験記を書いていただく予定です。

課題も見えた献血ルームでの推進活動

■献血ルームSHIBU2にて

10月28日に献血ルームSHIBU2で今年度通算5回目の献血・ドナー登録推進活動を行ないました。当日は朝から雨が降ったり止んだりの空模様でしたが、私たちボランティア8名が参加しました。先ずルームの係長さんから「今年4月から日赤の血液事業の運営体制が変わってブロック制となり、今までより沢山の血液を集めて新潟などにも送らねばならなくなり、とても厳しくなっている。そこで午前中は全員が外へ出て献血の呼びかけをして欲しい。」と言われました。

「沢山献血者に来てもらった上で、受付の職員からドナー登録希望の有無を訊きますから」と。しかし待っていてもなかなか訊いてもらえません。登録者は、午前中にはあらかじめドナー登録の為に来られた方を含め若干名。午後4時まで待つて合計で6名でした。

今までは各ルームの中でタイミングを見ながら声かけ出来ていたのに、今回はそれが出来ず、ドナー登録の数も少なめでしたから、ボランティア皆の気持ちが少ししぼんでしまいました。献血者数も係長さんは始めに目標100名とうたっていましたが実際は63名でした。

ルームによって献血者の数も方針も違いがあるようですので、私たちボランティアは事前の連絡を密にして、これにめげずに熱意と誠意をもって活動したいと思います。（新田雅子）

■流れに配慮しながら頑張りました！

12月9日、有楽町献血ルームでの協力活動とドナー登録推進活動が行なわれました。

今年最後の登録会は参加者は中谷夫妻、新田ママ、山本ママ、松下さん、櫻井正和さん、竹崎の7名でした。

今日は時々行列を作るほどの混み具合で、献血ルームのスタッフの方々も忙しかったと思いますが、私たちも頑張って動線の流れを乱さないように気を配りつつ声掛けをさせて頂き、登録者17名、献血者は254名となりました。

東京の会が活動を継続してきたルームなので、献血を定期的にしている方の中には、既に以前の私たちの呼びかけで登録して下さっていた方も何人かいらっしゃいました。ボランティアの姿を見て、ご自分の方から説明を聴きにきて下さった方や、説明だけを聞いて次回までに家族と話し合って登録します、という方もいらっしゃいました。

ソファがいっぱいになるほど混雑した為、途中で声掛けを中止しましたが、その間にいらっしゃった方だったのか、献血が終わってから登録のお話をさせて頂き、2回目の採血を快く受けて登録して下さった方には心から感謝の気持ちをお伝えしました。

所長さんも私たちの動きに注意を払って下さっており、入り口でかたまらないようにとか、圧迫感を与えないようになど配慮しながら全員頑張りました。人数的にはこれくらいで適正かと思いました。

ルームとの調整と共に、当日のスタッフを円滑に配置するためにもマネージャー的な存在を決めてこれからの活動をもっとスムーズに進められるように検討していきたいと思いました。（竹崎恵子）

「スノーボードと骨髄バンクを未来に伝える」 イベント、今年も大盛況！

荒井daze善正

こんにちは。SBPIF実行委員会実行委員長の荒井daze善正です。今回は先月18日に代々木公園で開催された「SNOW BANK PAY IT FORWARD2012」(以下SBPIF2012)について書かせていただきます。

まずはSBPIF2012をご存知では無い方に、このイベントの説明をさせていただきます。プロスノーボーダーとして絶頂期を迎えていた荒井daze善正が突如「慢性活動性EBウイルス感染症」を患いました。その時唯一の回復の見込みがあったのが、骨髄移植でした。2008年に骨髄バンクを介して骨髄移植を受け克服する事が出来ました。その時に、たくさんのスノーボーダーに支えられ、骨髄バンクを介して骨髄ドナーを見つける事ができ、命を救われた感謝の気持ちを、それぞれに「Pay back (返す)」するのではなく、これから骨髄移植を必要とする患者さんの為に「Pay it forward (前に進める)」を企画しました。

イベントの企画や実行する事すら初めてだった初年度は、右も左も分からずに本当にたくさんの苦勞をしたし、たくさんの方々にご迷惑をおかけしました。正直、昨年開催した直後は「二回目の開催は無い」とも思いました。しかし、昨年の実績や世の中のこの活動へのリアクションを受けて、続ける事によって若者に伝えられる事があるのではないかと思います、第二回を開催する決心ができました。

今回開催するにあたり、昨年のような失敗をしないように自分自身で全ての事を理解した上で、協力してくれる人達にお願いして行かなくてはならないと思っていました。その為に今回は事務局運営、スポンサー集め、イベントプロデュース、出演者アポ、備品やイベントグッズの発注など全てを自分で行いました。そのおかげでイベント全体をようやく把握する事が出来ました。

そして今回は、骨髄移植で白血病を克服した久保田

GAZZ誠さんと組んだ「DAZE BAND」でライブをしたり、オフィシャルカメラマンとして鳥羽さんに写真を撮ってもらい骨髄移植患者でも元気になる事を伝えてもらいました。そして骨髄バンク関係者以外でも今回は「HAND SIGN」などの著名人にも協力してもらったことで、多くの若者が集客が出来たと思います。

これからの骨髄バンクの普及啓発は、押し付けるのではなく若者の方から求めて来る様な、魅力あるモノにして行かなければならないと思います。そして進んで若者の方から登録したいと言わせる仕組み作りが必要だと僕は考えます。SBPIFを通じて若者の骨髄バンクへのイメージを変えて行けたらと思います。

寒い中の活動、本当にありがとうございました。この感謝の気持ちは皆様に「Pay back (返す)」するのでは無く、未来の患者さんの為に「Pay it forward (前に進める)」して行きたいと思います。来年は11月16日、17日の二日間開催を目指して動き始めております。来年も皆様のお力をお貸しいただけたら幸いです。今後とも宜しくお願い致します。



アマチュアも参加して技を披露

温かさであふれた都会のゲレンデ

千葉県骨髄バンク推進連絡会 杉本博一

11月18日(日)、東京では木枯らし1号が吹く冬晴れの中、今年も代々木公園野外音楽堂前で、-スノーボードと骨髄バンクを未来に伝えるボランティアアイベ

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2012.10.16~12.15)

三戸素子さん 10,000円／中川貢一さん 3,000円／櫻井康司さん 10,000円／中森立子さん 10,000円
中川 里枝子さん 2,000円／青山 峻太郎さん 1,000円／堀 雅子さん 10,000円／武田 みち子さん 3,000円
岸 清子さん 10,000円／小林 貴美子さん 2,000円／笠 優子さん 10,000円／津田 真知子さん 3,000円
鈴木隆雄さん 5,000円／本田尚子さん 3,000円／ピアノ三重奏コンサート募金 42,364円
赤沼正清さん 7,000円／山崎治夫さん 5,000円／南川英則さん 3,000円／中川 里枝子さん2,000円
鳥羽雅行さん 5,110円／林 正順さん 7,000円／山村 詔一郎さん 1,000円／和泉屋 正敏さん 3,000円
匿名 9,000円／スノーボード募金 3,450円／東京マリーンロータリークラブ 239,027円／
山崎 いつ子さん 17,000円／白水 豊さん 2,000円／荒井節子さん 1,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

ントー「SNOWBANK PAY IT FORWARD 2012」が開催された。主催者発表で来場者は1万人を超え、献血57名、ドナー登録37名と大盛況に終了した。



日赤さんの協力でドナー登録会は大成功

当日はイベント実行委員会の総指揮者準備・当日の進行などを一手に引き受けたスノーボードプロライダー荒井 daze 善正氏（全国協議会理事）を中心に、東京・千葉・埼玉・神奈川の各ボランティア、財団、日赤が協力して、イベントの成功を支えた。

イベント会場ではMCが、骨髄バンクと献血の大切さ、来場者への理解と協力を常に語りかける徹底ぶり、日赤職員による「骨髄バンクのドナー登録も…」と声かけの連携プレーが特徴的だった。この結果、献血者の65%がドナー登録するという驚異的な登録率となった。

「スノーボードと骨髄バンク」という、一見ミスマッチのようなこのイベントが、実は多くのスノーボードを愛する人たち・若者・家族と参加した子どもたちが日頃感じている「命の尊さ」を具体的な行動につなげるきっかけになっていた。多くの雪主さんが作った特設ゲレンデは、冷たさではなく会場に集まった人々の心の温かさであふれていた。

テントで「柚の販売」と「お菓子のつかみ取り」 埼玉骨髄バンク推進連絡会 笠原慶一

埼玉連絡会からは、下村・立石・泉水・山中さんと笠原が参加しました。

会場には、ドナー候補に相応しい元気いっぱいの若者や小さな子ども連れの家族が沢山集まり、このようなイベントの中でドナー登録会が出来ることは、願ってもないことです。

当会のメンバーは、幟を担いでドナー登録の呼びかけや募金の訴えを行うと共に、骨髄バンクのテントで柚の販売と「お菓子のつかみ取り」を行いました。柚は、山中さんがはるばる秩父から持ち寄ったもので、好評の内に完売し、その売り上げは全て荒井さんに寄付されました。

また、「お菓子のつかみ取り」は当会が埼玉県内のイベントでいつも行う、若い世代の親御さんを引き寄せる絶好の出し物です。こちらもめでたく在庫が一掃されました。

皆さん、お疲れ様でした。

スノーバンク ペイ イット フォワード 2012に参加して

神奈川骨髄移植を考える会 岩崎眞一郎

プロスノーボーダーの荒井さんが実行委員長を務める

【Snow Bank Pay It Forward 2012】が11/18（日）代々木公園で開催され、骨髄バンク関係からは東京・千葉・埼玉 子供達はそり遊びで大喜びの会が主にサポートし、その他に山形の前田さんも参加しドナー登録・献血の呼びかけを行いました。



スノーボードは雪の上を滑るものと思っていましたが、競技では、雪山の傾斜に沿って設置された径10cm高さ120cm位の丸手すりの上をスノーボードで滑り下っていました。途中でポートをターンさせる等の超難度の技をアマチュアの人も行っており、又、小学校低学年の参加もあり、驚きました。

競技の合間に子供のそり滑りをサポートしましたが、幼児（ご両親が抱いて滑った）から小学生位迄が途切れる事なく並び、予定時間50分を20分以上延長する盛況でした。

競技者案内の時にも献血・ドナー登録の呼びかけを何度もして頂き、ドナー登録者37名、献血57名して頂きました。当日は強風と低温で日なた以外ではすぐこごえる寒さでした。参加の皆様ご苦労様でした。

東京の会 「1月、2月定例会」 のお知らせ

1月26日（土）、2月16日（土）午後5時30分より

会場：全労済東京・レインボー会館3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドゥ」角入り右側

※3月定例会予定・3月23日（土）午後5時30分より

定例会は 毎月第4土曜日午後5時30分 から開催しています。

※2月の定例会は会議室の都合で第3土曜日に行います。

3月会報発送

「おりおり」のお知らせ

2月の「おりおり」はありません！

会報が隔月刊となったため、発送作業も奇数月のみとなります。

3月2日（土）13時00分より

※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。

場所：品川運輸・4階会議室（品川区東大井2-1-8）

JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分

※今お読みになっている「東京の会通信」を約1000部

折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作

業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。

※2013年5月「おりおり」予定・5月4日（土）13時00分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

編集者 雑記



▼慢性骨髄性白血病 (CML) の患者の多くは、グリベックやスプリセル、タシグナといった分子標的薬により、多少の副作用はあるものの、健康な方とほぼ同様の生活を送ることができるようになっていきます。しかし、これらの薬は、病気そのものを完治させるというよりも、原因となっている遺伝子異常による病気の発現を抑えるための薬であり、基本的に一生飲み続けなければなりません。これらの薬は非常に薬価が高く、経済的な負担が患者に重くのしかかっています。

▼高額な医療費を軽減するための制度としては、1 か月にかかった医療費が一定額を超えた場合に、年収による自己負担額の上限以内になるよう、支払った医療費を還付する高額療養費制度があります。この制度を使った場合の自己負担額は、一般所得者の場合で月額 4 万 4400 円以下 (4 か月目以降) に抑えられます。しかしそれでも年間に約 53 万円になり、10 年で 530 万円、20 代で発症して 50 年飲み続けたら、2650 万円にもなってしまいます。

▼こうした状況を改善するため、2009 年に CML の患者らが中心となって、CML を長期高額疾病に認定することを求める署名活動を行い、私たち東京の会も協力しました。この長期高額疾病とは、「費用が著しく高額な一定の治療として厚生労働大臣が定める治療を要し、かつ、治療を著しく長期間にわたって継続しなければならない疾病」であり、高額療養費制度の特例として、自己負担が月約 1 万円となりますが、現在認定されているのは、人工透析の腎不全、血友病、AIDS (エイズ) だけです。

▼しかし、この制度は公費助成であり、財政的な問題から新たな疾病の認定については壁が相当高い上に、長期にわたって高額な医療費がかかる病気が CML だけではないこともあって、長期高額疾病への追加認定は実現していません。

▼一方で、高額療養費制度自体を改善することによって、患者の負担を軽減しようという動きもあり、数年前から厚生労働省も制度改革に向けた試案を作成して、

諮問機関である社会保障審議会医療保険部会で検討されてきました。その内容は、(1) 現在の所得区分 (上位所得者・一般所得者・低所得者) のうち一般所得者を 3 つに区分して、年収が低い人の自己負担額を下げる、(2) 月の自己負担額が基準以下でも年間では制度適用者より高い自己負担が生じるケースがある不公平を是正するため、年間上限を設定する、というものです。

▼しかし、2011 年 11 月に示された厚生労働省の試案は、見直しによる財政影響が年間 3600 億円 (うち公費 1200 億円) と試算し、財政中立の立場から、新たに受診時定額負担 (試算では 100 円) を導入するという前提になっており、税と社会保険制度の一体改革の問題と絡んで議論が進まず、見送りになっていました。

▼そして今年の 11 月の医療保険部会に、新たな試案が示されました。しかしその内容は、昨年の試案と比較して、一般所得者の区分が 3 つから 2 つに減ったうえ、年間上限額も上がっているなど、大きく後退しています。これでは実質的に患者の負担軽減になるとは思えません。しかも、今回は財政的な影響は約 100 億円 (うち公費 20 億円) ですが、保険者 (国保や協会健保、健保組合、共済組合など) のシステム改修に数百億円がかかる見込みとしており、部会の議論でも保険者代表などから現実的ではないとの意見が多く出されています。このままでは、また見送りとなる公算が高くなっています。

▼システム改修にそんなに巨額の費用が掛かるという試算には首をかしげたくりますし、むしろできない方向に持っていこうとしているのではないかという疑いも持ってしまいます。制度改革には財政負担がつきものであり、保険者の負担を増やせば保険料に、新たな窓口負担を増やせば患者の負担に、公費の負担が増えれば税金に跳ね返ってくることになります。しかし、だからといって今困っている患者をそのままにしていわけがありません。制度改革が必要で、そのためにこれだけの負担が必要であると明確に示し、納得できれば、国民は負担増も受け入れるはずです。

▼総選挙の結果、政権が交代しました。新政権に対しては、国民皆保険制度を含む社会のセーフティネットを守り充実させていくこと、そのために必要な制度改革について、国民負担も含めて明確に示してほしいと思います。 (S)

東京ドナー登録会予定 (1月・2月)

1/8 (火) 足立区役所
1/9 (水) 足立区役所
1/10 (木) 足立区役所
1/11 (金) 足立区役所
1/12 (土) ぽっぽ町田 (町田市)
1/21 (月) 都庁
1/22 (火) 都庁

1/23 (水) 都庁
1/23 (水) 晴海トリトンスクエア
1/24 (木) 晴海トリトンスクエア
1/25 (金) 晴海トリトンスクエア
2/18 (月) 中央区役所
2/23 (土) イトーヨーカドー葛西店 (江戸川区)
2/27 (水) 世田谷区民会館会議室 (世田谷区)